

苺の回転を良くするには

(今年も温暖化の影響で頂花～腋花の内葉増加)

＜品種や作型により頂花⇒腋花の内葉数は平年よりプラス1～2枚増加もありそう＞

対策

① 環境制御対策を十分活用 (生育展開を良く、葉・果実・根張りを良くします)

- a. 炭酸ガスCo2を午前中の光合成活動時間帯から濃度は450～600ppmで活性を図ります。
- b. 炭酸ガスの処理と同時に水管理や施肥 (追肥) は20～30%前後増やします。
- c. 同時にハウス内湿度を高くします。「Co2濃度と湿度の相関関係＝飽差3～6」

② 電照や温度管理 (夜温・早朝温) を生育に応じた管理

- a. 品種や作型により電照を効かせて矮化 (中休み) 現象を抑制します。
- b. 生育展開が良くなっても葉柄徒長や葉が薄くなると生育のマイナスになりますから微調整をします。
- c. 葉柄は抑え葉は厚く光合成作用を活発化に「シリカ水」「カル元気」「PKゴー」をお勧めします。